
社 会 活 動

業績集 地域貢献諸活動

氏名：浅田 豊

実施年月：20150400

内容：学科ホームページ上で、教員個人の研究成果を広く配信した。

氏名：井澤 弘美

実施年月：20151000

内容：野田村ボランティアに参加

氏名：浅田 豊

実施年月：20151000

内容：子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク全国会議（埼玉県）

氏名：市川 美奈子

実施年月：20150600

内容：

氏名：浅田 豊

実施年月：20151200

内容：H27 前期2件 後期4件 ピアレビュー実施及びピアレビューを受けること：ともに有り。

氏名：市川 美奈子

実施年月：20160300

内容：

氏名：浅田 豊

実施年月：20160200

内容：講話依頼に基づき、高大連携提携高校において事業・授業に関する短い講話1件を提供

氏名：岩井 邦久

実施年月：20150500

内容：第8回大学は美味しい!!フェア, 5/28~6/2, 東京都

氏名：浅田 豊

実施年月：20160200

内容：青森市に対する意見提出2件

氏名：岩井 邦久

実施年月：20150600

内容：うしろがた漁港まつり・ホヤ料理提供, 2015/6/14, 青森市

氏名：浅田 豊

実施年月：20160200

内容：(NPO活動他) 学校教育と社会教育との協働に関する全体会において、指名依頼を受け提案・意見提出を行い、製本冊子報告書への記録に至った(浅田豊)。

氏名：岩井 邦久

実施年月：20150600

内容：知的財産研修・導入教育, 2015/6/10, 青森県立保健大学

業績集 地域貢献諸活動

氏名：岩井 邦久
実施年月：20150800
内容：平成 27 年度第 1 回青森県知的財産連携会議，
2015/8/31, 青森市

氏名：岩部 万衣子
実施年月：20150400
内容：〈事業名〉平成 27 年度保育所発！子ども元気
スリムプラン事業
〈役割〉野菜もりもりバナナうんちで元気いっぱい
プランの助言
〈主催〉青森県・青森県保育連合会

氏名：岩井 邦久
実施年月：20151000
内容：おいらせ町味祭館，感謝祭出展販売，おいらせ
町

氏名：オガサワラ メリッサ
実施年月：20151200
内容：青森県内のボランティア通訳者を対象に、第 3
回の医療通訳養成研修を企画し、実施した。医療通
訳に必要な「Ⅰ知識、Ⅱ技術、Ⅲ倫理」の基本的概
念を理解してもらうことを目的とし、青森県の医療
通訳現場で通訳者が活躍できるよう支援するもので
ある。

氏名：岩井 邦久
実施年月：20151000
内容：平成 27 年度第 1 回青森市水産振興協議会，
2015/10/28, 青森市

氏名：金野 将也
実施年月：20150800
内容：〈役割〉医療班

氏名：岩井 邦久
実施年月：20151000
内容：知的財産研修【先行技術調査講習会】企画・
運営，2015/10/13, 青森県立保健大学

氏名：金野 将也
実施年月：20150900
内容：〈役割〉講師

氏名：岩井 邦久
実施年月：20151200
内容：第 1 回青い森の食材研究会，2015/12/4, 青森
市

氏名：金野 将也
実施年月：20151000
内容：〈役割〉血管年齢測定担当

氏名：岩井 邦久
実施年月：20160200
内容：平成 27 年度第 2 回青森県知的財産連携会議，
2016/2/9, 青森市

業績集 地域貢献諸活動

氏名：川内 規会

実施年月：20151200

内容：平成 27 年度研修企画・実施助成申請の結果、採用となり「第 3 回医療通訳養成研修」を実施した。

期間は 2015 年 12 月 5 日、12 日、会場は青森県立保健大学。対象者は青森県内のボランティア通訳者、医療現場で通訳の経験のある人、医療通訳に興味のある人とした。研修内容は「知識、技術、倫理」の基本的概念を理解してもらう事を目的とした講義と演習である。

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150700

内容：ユニフィケーション：2015 年 7 月 16,23 日 青森県立中央病院リンパ浮腫外来にて施術(C D P)実施。

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150400

内容：ユニフィケーション：2015 年 4 月 9,28 日青森県立中央病院

リンパ浮腫外来にて施術(C D P)を実施。

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150800

内容：ユニフィケーション：2015 年 8 月 12,20 日 青森県立中央病院リンパ浮腫外来にて施術(C D P)を実施。

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150500

内容：ユニフィケーション：2015 年 5 月 14,25 日 青森県立中央病院リンパ浮腫外来にて施術(C D P)

を実施。

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150800

内容：2015 年 8 月 17 日

八戸市立市民病院のリンパ浮腫外来開設後の 施術指導

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150500

内容：2015 年 5 月 29 日

八戸市立市民病院のリンパ浮腫外来開設指導

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150900

内容：ユニフィケーション：9 月 8,9 日 青森県立中央病院

氏名：木村 恵美子

実施年月：20150600

内容：2015 年 6 月 25 日

つがる広域西北地区総合病院における リンパ浮腫外来開設指導

氏名：木村 恵美子

実施年月：20151100

内容：11 月 25 日 つがる総合病院

業績集 地域貢献諸活動

氏名：木村 恵美子
実施年月：20151200
内容：12月 4.11.18日 つがる総合病院

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20150400
内容：青森県小児糖尿病サマーキャンプでの栄養サポート活動

氏名：木村 恵美子
実施年月：20160100
内容：1月 8.22.29日 つがる総合病院

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20150900
内容：介護技術 講師

氏名：木村 恵美子
実施年月：20160200
内容：2月 19.26日 つがる総合病院

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20151200
内容：看護過程の基礎 講師

氏名：木村 恵美子
実施年月：20160200
内容：ユニフィケーション：2月 10日 青森県立中央病院

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20160300
内容：論文指導

氏名：木村 恵美子
実施年月：20160300
内容：3月 11.29日 つがる総合病院

氏名：古川 照美
実施年月：20150600
内容：〈事業名〉岩木地区・相馬地区住民における健康調査
〈役割〉アンケート調査による健康疫学調査
〈主催〉弘前大学大学院医学研究科社会医学講座
〈開催場所〉岩木中央公民館・あそべーる
〈対象〉岩木地区・相馬地区住民

氏名：木村 恵美子
実施年月：20160300
内容：ユニフィケーション：3月 8.29日 青森県立中央病院

氏名：小林 昭子
実施年月：20160300
内容：平成 27 年度健診従事看護師研修会
神経損傷予防のための採血法の基礎知識
担当：演習補助
主催：青森県
対象：健診従事看護師

業績集 地域貢献諸活動

氏名：齋藤 良子
実施年月：20160300
内容：

氏名：佐藤 しのぶ
実施年月：20160000
内容：専任教員

氏名：笹森 佳子
実施年月：20150800
内容：【主催】青森市筒井・奥野地区社会福祉協議会
【内容】独居高齢者を対象とした昼食会における学生サークル「りんごの会」による
健康教育およびレクリエーション
【場所】青森市中央市民センター筒井分館および奥野市民館
【役割】学生の活動支援

氏名：田中 栄利子
実施年月：20150500
内容：演習講師

氏名：田中 栄利子
実施年月：20150900
内容：青森南高校 UD の講師

氏名：笹森 佳子
実施年月：20150900
内容：【主催】青森市堤川西地区社会福祉協議会
【内容】独居高齢者を対象とした昼食会における学生サークル「りんごの会」による
健康教育およびレクリエーション
【場所】青森市中央市民センター
【役割】学生の活動支援

氏名：田中 栄利子
実施年月：20150900
内容：演習講師

氏名：田中 栄利子
実施年月：20160100
内容：講師

氏名：笹森 佳子
実施年月：20151000
内容：【主催】全国公立大学ネットワーク Link Topos
【内容】学生サークル「りんごの会」による平成 27 年度ヘルスリテラシー向上サポート活動の「地域のつながりで健やか力を向上させよう運動」に関するポスターセッション
【場所】愛知県岡崎市青年の家/名古屋市立大学(桜山キャンパス)
【役割】大会参加、学生の活動支援

氏名：伝法谷 明子
実施年月：20151000
内容：健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート宣言 大学祭企画 血管年齢測定

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20150400
内容：若年性生活習慣病予防検診業務
＜内容＞骨密度測定および体組成測定
＜開催時期＞H27 年 4 月～5 月
＜開催場所＞南部町、平内町、鱒ヶ沢町の各中学校
＜対象＞中学生

業績集 地域貢献諸活動

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20150400
内容：青森県看護教育研究会会長校事務局
＜開催時期＞H27年4月～H28年3月
＜開催場所＞青森県立保健大学
＜対象＞青森県内看護師養成校教員

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20151100
内容：野田村支援活動
＜時期＞H27年11月28日（金）
＜内容＞震災体験者の方々と一緒に列車に乗車し交流会を開催

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20150700
内容：健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート活動 / スタートアップフェスタ
＜開催時期＞H27年7月4日
＜開催場所＞青森県立保健大学
＜内容＞地域住民へのヘルスリテラシー向上サポート活動 PR

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20151200
内容：青森県看護教育研究会地域看護学グループ研究
＜開催時期＞H27年12月～H28年1月
＜開催場所＞青森中央学院大学
＜研究テーマ＞看護師課程で学ぶ「地域」に関する調査

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20150800
内容：ケア付きねぶたじょっぱり隊参加、支援
＜開催時期＞H27年8月3日

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20151200
内容：健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート活動 / 元気フェスタ
＜開催時期＞H27年12月26日（土）
＜開催場所＞アピオあおもり
＜内容＞本学学生、弘前大学、弘前学院大学学生による地域住民向け健康関連のプログラムの実施

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20150900
内容：第39回日本自殺予防学会
＜開催時期＞H27年9月12日～13日
＜役割＞学会事務局 企画運営委員
＜テーマ＞人と人、人とサービス、サービスとサービスをつなぐ～自殺予防に向けて～

氏名：外崎 裕梨
実施年月：20150800
内容：設営班

氏名：外崎 裕梨
実施年月：20150900
内容：大会運営にかかる実行委員 当日スタッフ

業績集 地域貢献諸活動

氏名：外崎 裕梨

実施年月：20150900

内容：演習における実技指導

氏名：乗鞍 敏夫

実施年月：20151100

内容：栄養学の初歩 青森明の星高等学校

氏名：外崎 裕梨

実施年月：20151000

内容：ヘルスリテラシー向上サポート宣言 大学祭
企画

<主催・開催場所>青森県立保健大学

<内容>血管年齢測定

<役割>運営

<対象>地域住民

氏名：乗鞍 敏夫

実施年月：20160100

内容：講師 研究内容と特許の紹介
青森県庁商工労働部 新産業創造課

氏名：沼田 祐子

実施年月：20150900

内容：【役割】一般演題座長 セッションテーマ「教
育」

【主催】岩手県立中央病院 業務企画室

【開催場所】アイーナ（いわて県民情報交流センタ
ー）

【対象】日本医療マネジメント学会 会員

氏名：福井 幸子

実施年月：20150700

内容：学生自治会主催の清掃活動

氏名：乗鞍 敏夫

実施年月：20150600

内容：基礎栄養学（エネルギー摂取量と消費量）青
森県立三沢高校

氏名：福井 幸子

実施年月：20151000

内容：<役割>会場係

<主催>ICCS ネットワーク研究会

<開催場所>青森県立保健大学

<対象>医療従事者

氏名：乗鞍 敏夫

実施年月：20150800

内容：実行委員

氏名：福島 真人

実施年月：20151000

内容：<内容>会議

<開催場所>青森県立保健大学

業績集 地域貢献諸活動

氏名：福島 真人
実施年月：20151000
内容：＜内容＞施設の手続き
＜主催＞青森県理学療法士会

氏名：盛田 寛明
実施年月：20151200
内容：＜事業名＞ やさしさ雪みちボランティア
＜役割＞ ボランティア（平成 27 年 12 月中 3 回）
＜開催場所＞ 青森市堤町～古川区間内バス停（市役所前，NTT 前，文化会館前）

氏名：藤田 智香子
実施年月：20150700
内容：サポート班として参加者をサポートしつつ交流

氏名：三浦 雅史
実施年月：20150700
内容：ボランティア

氏名：村上 眞須美
実施年月：20150900
内容：【事業名】 あおもり認定看護管理者会 セミナ
ー

【役割】 企画・運営
【主催】 あおもり認定看護管理者会
【開催場所】 アスパム
【対象】 看護職

氏名：村上 眞須美
実施年月：20160100
内容：【事業名】 実践報告会、
セミナー「特定行為に係る看護師の研修制度の理解
と活用」
【役割】 企画・運営
【主催】 あおもり認定看護管理者会
【開催場所】 あおもり県立中央病院
【対象】 看護職

地域連携・国際センター一年報

I 認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）報告

1 セカンドレベル実施概要

平成 27 年度は、セカンドレベルの教育課程を開講した。

(1) 日程：第 1 クール 平成 27 年 6 月 22 日（月）～7 月 24 日（金）

第 2 クール 平成 27 年 8 月 21 日（金）～9 月 4 日（金）

(2) 受講生：32 名（修了者 32 名；県内 26 名、県外 6 名）

看護部長等 1 名、副看護部長等 4 名、看護師長等 26 名、主任看護師等 1 名

(3) 内容：

- ・カリキュラムは、「看護組織管理論」、「人的資源活用論」、「ヘルスケアサービス管理論」、「医療経済論」、「統合演習」の 5 つの教科目からなり、講義と演習で構成している。時間数は規定の 180 時間のほかに、コースガイダンス、レポートの書き方、プレゼンテーション等 12 時間を加え、計 192 時間であった。
- ・講師は、県内外の専門分野の教育・研究・実践者が担当し、学内教員の協力も得た。
- ・学習方法は、成人学習者として主体的に展開することを目指し、講義、演習、プレゼンテーションにより構成した。
- ・企画書のテーマは「自分が所属する組織における問題点を分析し、改善計画を立案する」とし、各自でテーマを設定して取り組んだ。

2 セカンドレベルフォローアップ研修

(1) 目的：自らが立案した組織の改善計画の実施を推進するとともに、セカンドレベル修了生の看護管理実践能力を向上させる。

(2) 内容：セカンドレベル終了後の実践状況報告およびコンサルテーション

(3) 開催日：平成 28 年 2 月 27 日（土）

(4) 場所：青森県立保健大学 C 棟 2 階 N 講義室 1

(5) 参加者：平成 27 年度セカンドレベル修了者 26 名、演習支援者 10 名、その他 19 名 計 55 名

Ⅱ 研修科事業報告

平成 27 年度の研修科事業の概要

1 公開シンポジウム「第 15 回地域包括ケア・フォーラム in 青森」

(1) 企画の背景

青森県では、平成 9 年から保健・医療・福祉サービスを総合的・一体的に提供するための「地域包括ケア・システム」整備に取り組んできた。一方、本県の平均寿命及び健康寿命が全国の下位にあることから、平成 26 年の推進方策指針の改定では、支援を要する状態になること自体を防ぐため、保健・介護・医療・福祉の全ての分野における全ての段階での予防を重視した他職種による総合的、一体的なサービス提供の重要性が示され、取り組みが進められている。

(2) 研修目的

予防を重視した観点から、県民の「健やか力向上」のために行っている取り組みについて発表し、今後の連携のあり方を探る。

(3) 研修受講者

県内各行政機関職員及び県内病院等保健医療福祉専門職他：37 名

(4) 開催日時および場所

平成 27 年 11 月 17 日（火）13：20～16：30

青森県立保健大学 A 棟 1 階 A111 教室

(5) 研修内容

テーマ「地域における健やか力向上のための取り組み」

ア 基調講演：講師：青森県立保健大学 特任教授 大西基喜

「青森県における保健医療行政の動向について」

イ シンポジウム：「地域における健やか力向上のための取り組みの実際」

○保健師 十和田市健康福祉部健康増進課 河野鮎美氏

○管理栄養士 東北町保健衛生課 総括栄養士 小沼奈緒美氏

○理学療法士 青森県理学療法士会 会長 古木名寿登氏

ウ ディスカッション

(6) 研修の成果および評価

研修会終了後、アンケート調査を実施した。参加者 37 名のうち、26 名（回収率 70%）から回答をいただいた（詳細はアンケート結果参照）。基調講演の満足度は、「満足した」46%、「概ね満足した」35%、シンポジウムの満足度は「満足した」23%、「概ね満足した」65%であった。今後の職務に「大いに役に立つ」42%、「少しは役に立つ」54%で、研修会の評価は概ね良好であった。理由としては、「研修内容が実務に結び付いていた」、「最新の知識研究内容だった」との評価が多数を占め、充実した研修会になったと言える。

検討すべき意見として、「レジュメの文字が小さすぎて見づらかった」という指摘があった。

(7) 反省点（次年度への改善点など）

受講者数は、前年度よりも 59 名少なかったことから、関係機関への周知や P R 方法について検討が必要と思われる。このことに関連し、とてもよい内容であったにもかかわらず、参加者が少なく残念だったとの声もあった。また、地域包括ケア・システムの実践者やモデル事業を実践している自治体等の話を聞きたいとの要望があった。今後もアンケート結果に基づき、受講者の要望に応えるべく、シンポジウムの内容、運営方法等を十分に考慮し、今後もより良い研修会の開催に向けて検討する。

2 静脈注射学び直し研修会

(1) 企画の背景・目的

平成 20 年度に文部科学省の委託事業として【医療安全にかかわる看護技術「静脈注射」の学び直しプログラム】を平成 22 年度まで 3 年間実施し、その後看護職からのニーズに対応すべく研修会開催の準備に取り掛かってきた。平成 25 年度に潜在看護師や新卒看護職を対象とした静脈注射の学び直し研修会（初級編）を開催した。平成 26 年度は、青森県内 100 床未満の病院または県内訪問看護ステーションに勤務され、輸液ポンプ・シリンジポンプ操作による速度管理の経験（または予定）があり、根拠に基づいた知識・技術習得を希望する看護職として開催した。今年度は資格を持ちながらも暫く看護の仕事から遠ざかっていた看護職や新卒看護職を対象に「静脈注射の基礎知識」（初級編）についての講義と演習を開催した。

(2) 研修受講者

潜在看護師及び現役看護師：31 名

(3) 開催日時

平成 27 年 9 月 5 日（土）9：30～16：30

(4) 場所

講義：A 棟 3 階 演習室 A6（305 教室）

演習：基礎成人看護実習室

(5) 研修内容

ア 講義（法的責任、静脈の機能と構造、薬剤の基礎知識、輸液管理の実際とリスク及びその対策）
イ デモンストレーション・演習（ミキシング、プライミング、静脈留置針の挿入と輸液開始、輸液終了と抜針）

(6) 研修の成果および評価

募集定員 30 名に対し 3 名多い 33 名の申込者であったが、研修当日 2 名の欠席者がおり、参加者 31 名により開催した。

アンケートの集計結果をみると、受講者の殆どが自分の目的達成に役立ったと回答しており、逆にもう少し詳しく知りたかったものとして、「静脈注射演習」、「静脈注射のリスクとその対策」、「静脈注射に関する薬剤の基礎知識」が多かった。今後も同様な内容で開催する静脈注射学び直し研修会があれば参

加しいかについては、殆どの参加者が「必ず参加したい」、「可能な限り参加したい」と答えており、改めて本研修会に対するニーズの高さが伺える。

(7) その他

今年度は県看護協会との共催という形により開催し、県看護協会からの案内やホームページを見て本研修会を知り、参加したと答えた参加者が多かった。

本研修会は次年度から県看護協会に移管されることになるが、共催という形を念頭に本学は最大限の協力をしていく。

3 研修企画・実施助成事業

県内の保健医療福祉専門職を対象とした研修企画を募集し、助成を行った。採択された研修企画については事業実績報告書参照のこと。

4 教育改善研究助成

本学の教育方法等の改善に資するための研究課題を募集したが、今年度の応募はなかった。

5 ブックレット作成事業

本学教員の研究成果を県民に還元することを目的とした冊子の発行を募集したが、今年度の応募はなかった。

親子の関係性とよい生活習慣を育むための研修会

企画提案・実施者 古川照美¹⁾、戸沼由紀¹⁾、増田貴人²⁾

1) 青森県立保健大学、2) 弘前大学

1 企画の拝啓

この研修企画は青森県の健康問題解決につながる、子どもの頃からの生活習慣病予防をすすめていくための鍵を握る保健師を対象とした研修会です。また、本学では「健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート宣言」をし、青森県の抱える短い平均寿命、高い生活習慣病死亡率、高い小児肥満率などの健康課題の解決に向け、大学をあげて取り組むこととなりました。青森県における生活習慣病予防のためには、子どもの頃からの良好な生活習慣の形成の必要性と、子どもの良好な生活習慣の形成には、親が良好な生活習慣であること、さらには、日常生活における親子の良好な関係性が必要であることが示唆されています。このことから、3歳児検診において、保健師が意図的に親子の関係性とよい生活習慣を形成していけるような支援をする必要があると考えました。

2 研修目的

3歳児健診において、保健師が親子の関係性と生活習慣に関する効果的な保健指導を行うため、親子の関係性と親子の生活習慣に着目する必要性の理解と、問診および保健指導に活用するための教材を用いた研修会を実施します。これにより、青森県内の多くの地域が子どもの頃からの生活習慣病予防に取り組む機運が高まることが期待されます。

3 研修受講者

職種：県内保健師 受講者数： _____

4 開催日時および場所

未実施

5 研修内容

6 研修の成果および評価

7 その他（改善検討事項、特記事項など）

企画していた研修会のパンフレット作成が遅れたことにより、事業実施期日である2月末までに研修会を実施する目処が立たなかったことから、研修科委員会において審議の結果、研修が未実施となったものである。

第 3 回 医療通訳養成研修

川内規会¹⁾、小笠原メリッサ¹⁾、菊池哲佳²⁾

1) 青森県立保健大学、2) 仙台観光国際協会

1 企画の背景

青森県は医療通訳システムが整っていない地域の一つで、医療通訳者を養成できる機関も組織もない。平成 25 年度に県内で初めて「医療通訳養成研修」を企画し、医療者やボランティア通訳者、医療現場で通訳を経験した人などを対象に実施した。日本の医療通訳の現状と課題を共有し、県内の医療分野で通訳できる人の養成を目指しながら、専門的な知識と技術に触れた。多くの参加者や県民から、今後も実施して欲しいという要請や期待があり、昨年度に引き続き、日数・時間・内容を改善した上で平成 27 年度も研修を企画した。

2 研修目的

県内の医療現場で活躍できる通訳者の養成を目指し、医療通訳に必要な「Ⅰ. 知識 Ⅱ. 技術 Ⅲ. 倫理」の基本的概念を理解してもらうことを目的とした。特に医療の通訳は、必要とされる力が語学力のみではないことを理解してもらい、実際の医療現場で、医療者と外国人患者の双方を支援できるように、通訳業務が円滑に実践できる力をつけてもらうことを目指した研修である。

3 研修受講者

主に医療関係者（看護師、放射線技師、養護教員、大学看護教員）、ボランティア通訳者（自治体のボランティア通訳登録者、通訳団体登録者）、通訳経験者や外国国籍の人などが参加した。受講者数は 30 人（2 日間で延べ 60 人）であった。

4 開催日時および場所

開催時期：2015 年 12 月 5 日(10:00-16:00)、12 日 (9:30-15:30)

開催場所：青森県立保健大学 1 F A107 教室

5 研修内容

外部講師：菊池哲佳（仙台観光国際協会国際化推進課）

内部講師：川内規会（青森県立保健大学准教授）、小笠原メリッサ（青森県立保健大学講師）

講義内容：在留外国人の背景、日本の医療通訳の現状と国の動き、医療通訳の倫理問題、青森県の通訳事情、通訳者としての心構え等

演習内容：場面別の役割練習、医療通訳技術練習（サイトラ、ノートテイキング等）グループワーク：体験の共有、今後の活動計画

6 研修の成果および評価

研修内容に対する評価が高く、期待される成果は得られたと思われる。募集人数に関しては、募集開始 1 週間で定員 20 名を超え、最終的に 30 名の参加者となった。県民の向上心と研修への期待がうかがえる。参加者から講義・演習ともに好評で満足度は高かった。

今回は、県内各地から現役で通訳活動をしている人（青森県や青森市の通訳ボランティア登録者、弘前市のボランティア通訳団体、三沢基地の通訳者団体など）が、複数で参加していたことが特徴といえる。また、マレーシア国籍の参加者や、看護師、放射線技師、養護教員、大学看護学教員など医療を専門とする人々の参加者が増え、現場で必要とされる知識や情報を得たという声が多く、社会的にも意義ある研修であったと評価する。

7 その他（改善検討事項、特記事項など） 特になし。

青森県における認知症サポーター養成の推進に関する研修

企画提案・実施者 笹森佳子¹⁾ 工藤英明¹⁾ 石田賢哉¹⁾ 大畑美齡²⁾ 石戸育子³⁾

1) 青森県立保健大学、2) 協立クリニック、3) 認知症の人と家族の会

1 企画の背景

急速な高齢化の進展に伴う認知症者の増加に対し、住み慣れた地域で認知症者とその家族を支えていくための方法として、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターの養成が推進されている。青森県は全国に比べ、特に 10～20 代の若年のサポーター養成率が低い。そこで本研修企画では、大学を拠点として保健医療福祉の専門職を目指す学生を対象に認知症サポーター養成講座を実施することで、青森県の認知症サポーター養成を推進することをねらいとして研修を実施した。

2 研修目的

研修目的は以下の 3 点である。①大学を拠点として認知症サポーター養成講座を実施することで若年のサポーター数を増やすこと、②学生が一人の生活者としての視点を持ち認知症の人と家族に対する理解を深めること、③ヒューマンケア専門職を目指す学生が、認知症サポーター養成講座の目的や意義を理解し、地域住民のヘルスリテラシー向上に向けた意識づけをすること。

3 研修受講者

職種：受講を希望した青森県立保健大学の学生および地域住民

受講者数：養成したサポーター 104 人（3 日間のべ参加者数 144 人）

4 開催日時および場所

- (1) 10 月 16 日（金）19:00-20:30 A 棟 A107 教室（認知症サポーター養成講座①）
- (2) 10 月 17 日（土）10:00-11:30 A 棟 A107 教室（認知症サポーター養成講座②）
- (3) 10 月 25 日（日）13:30-15:30 A 棟 A111 教室（認知症サポーターステップアップ講座）

5 研修内容

(1) 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座標準教材テキストを用いて、「認知症の基礎知識の理解（笹森）」や「認知症の人と家族を支える専門職の役割（工藤）」について講義を行い、「認知症の方と接したエピソードとその時の対応方法」についてグループワークを通じ、発表およびディスカッションを行なった。（ファシリテーター：笹森、工藤、石田）

(2) 認知症サポーターステップアップ研修

認知症サポーター養成講座の受講者を対象に、認知症サポーターに知ってもらいたい症状と家族の思いについて、大畑美齡氏と石戸育子氏による講話を実施した。

6 研修の成果および評価

受講者は 10 代の高校生から 80 代までと多世代が集まり、認知症への関心の高さが伺えた。研修後のアンケートでは「認知症について理解できた」と答えた受講者が多くいた。また、認知症の人に対するイメージを研修前後にアンケートで比較したところ、12 項目中 11 項目について、受講前と比べ受講後ではより肯定的なイメージへと変化していた。さらに、学生と地域住民を混合のグループ編成にしたことで、世代や立場による捉え方の違いを知ることや多世代交流の場にもつながった。以上の成果から、今後も継続して認知症サポーター養成に取り組むことでヘルスリテラシーの向上に寄与し、地域社会へ貢献していきたい。

7 その他（改善検討事項、特記事項など）

グループワークを実施するため、参加者数によっては、研修会場の検討が必要。

Ⅲ 国際科事業報告

平成 27 年度の国際科事業の概要

1 米国ベレノバ大学との交流

平成 27 年度はベレノバ大学との交流協定の更新年にあたる。更新に伴い、これまでの協定案を見直し、日本語版と英語版の両方の協定文を作成した。主な修正内容は、研修受け入れだけでなくお互いの交流を行うことを目的とすること、協定を解除する場合には 6 か月前に通知することなどとした。10 月 26 日～10 月 30 日の日程で、上泉学長および川内国際科長がベレノバ大学を訪問し、交流協定について協議した。今後 5 年間の協定の更新について両校の合意が得られ調印式を行った。

平成 28 年度は、5 月 8 日～5 月 14 日の日程で、ベレノバ大学から学生 8 名および引率教員 2 名を受け入れることが決定した。看護学科の受け入れ準備は、1 月から看護学科ベレノバ小委員会が中心となって行っており、研修スケジュールと内容の決定および役割分担、ボランティア学生の募集および説明など進めている。

(担当者:看護学科 本間ともみ)



2 韓国仁済(インジェ)大学校との交流

例年どおり、韓国の仁済大学校の教員を講師とした講演会の開催を 7 月に予定し準備を進めていたが、韓国内の「MERS コロナウイルス」流行により、仁済大学校からの研修及び本学からの訪韓による研修と講演会が共に中止となった。

(担当者:理学療法学科 李 相潤)

3 国際科講演会

(1) 国際協力市民公開講座における講演会

《開催日》 平成 27 年 10 月 11 日 (日) 11:00～11:40 来場者数 18 名

《内 容》 青年海外協力隊の薬剤師隊員として、タンザニア連合共和国で 2009 年 1 月～2011 年 1 月に活動され

た春木茂紀さんから、タンザニアの暮らしや文化、活動中思い出に残っているエピソードなどを語ってもらった。

(担当者:栄養学科 草間かおる)

(2) 講演会

《開催日》 平成 27 年 11 月 6 日(金)14:00～16:00

《会 場》 本学 A 棟 1 階 大講義室(A111)

《内 容》 公益財団法人仙台観光国際協会 国際化事業部国際化推進課 主任 菊池哲佳 氏
『多文化共生ってなに?』

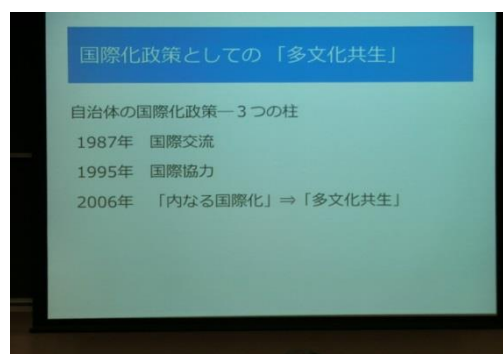
講演では、普段はあまり馴染みのない「多文化共生」という難しいテーマであったが、誰もが知っ

ている話題や外国人を取り上げたり、菊池氏自身の豊かな経験談なども盛り込みながら、わかりやすく丁寧にお話いただいた。そのため参加者にとっても自分たちの生活により引きつけて考え、理解することができたように思う。また講演の途中にはグループワークもおこない、ともに楽しみながら参加することのできた講演会であった。

参加者アンケートからは、「共に文化を創っていくことが重要だと知ることができた」「文化の違いを具体的に示されると納得できた」「外国人に対する抵抗感を持つ日本人も多いが少しずつ多文化共生を広げていくことが大切だとわかった」など、有意義な内容であったとの感想が多数寄せられた。

「多文化共生を理解するための基礎編」と位置づけて開催した今回の講演会であったが、これからの生活の中で「多文化共生」に関心を向ける一つのきっかけになり得てほしいと願うものである。

(担当者: 社会福祉学科 児玉寛子)



(3) 国際協力市民講座

《開催日》 平成 27 年 10 月 10 日 (土)、 11 日 (日) 10:00～16:00

(講演会は 10 月 11 日 11:00～11:40)

《場 所》 本学大学祭において、B 棟 1 階講義室 B4 (B109)

《内 容》 1. 写真展 (春木茂紀さん (青年海外協力隊/職種:薬剤師/派遣国:タンザニア) の東アフリカ・タンザニアでの活動風景)
2. (独) 国際協力機構 (JICA)、青年海外協力隊の紹介
3. NGO (公益財団法人 国際開発救援財団) の活動紹介
4. 市民講座 (講演会)

《講 師》 春木 茂紀 さん (青年海外協力隊/職種:薬剤師/派遣国:タンザニア)

《題 名》 東アフリカ・タンザニア連合共和国で耐えた二年間

《来場者数》 写真展等 (上記内容 1～4) の来場者数 214 名、市民講座 (講演会) の来場者数 18 名

(アンケート結果抜粋)

○アンケート回答者の性別割合は (以下、回答数、割合を示す)、男性 54 (30.5%)、女性 123 (69.5%)であった。年齢階級別割合は、12 歳以下 18 (10.2%)、13～15 歳 6 (3.4%)、16～18 歳 15 (8.5%)、19～29 歳 28 (15.8%)、30～39 歳 14 (7.9%)、40～49 歳 34 (19.2%)、50～59 歳 28 (15.8%)、60～69 歳 19 (10.7%)、70 歳以上 12 (6.8%)であった。

○「開発途上国の現状や国際協力について理解が深まりましたか?」についての設問の回答は、深まった: 44 (24.9%)、やや深まった: 117 (66.1%)、よくわからなかった: 14 (7.9%)、わからなかった: 0 (0%)であり、9 割以上のものが国際協力についての理解を深めていた。

○「このようなイベントがあった方がよろしいですか?」についての設問の回答は、あった方がよい:

169 (95.5%)、どちらとも思わない：7 (4.0%)、なくても良い：0 (0%)であり、今後もこのような催しへのニーズは高かった。

○「市民講座（講演会）の内容に満足されましたか？」についての設問の回答は、とても満足 3 (27.2%)、ほぼ満足 8 ((72.7%)、やや不満 0 (0%)、とても不満 0 (0%)であり、周囲の魅力的な数ある催しの中から本講演会への参加の促しは大変困難であったが、参加いただいた方からの評価は大変高かった。

(担当者：栄養学科 草間かおる)

(写真展及び講演会の写真)



4 国際科委員会 英語教員の地域交流

イングリッシュ・カフェ

《開催日》 平成 27 年 8 月 9 日（日）12:00～15:00 来場者数 88 名

《内 容》 English Café was held on August 7th during the annual Open Campus at Aomori University of Health and Welfare. 4 English teachers chatted with students from various Junior and Senior high schools about their hobbies, family, school and other topics of interest to them. Drinks and snacks were served to create a café-style experience. We welcomed a mix of both boys and girls and the students tried hard to speak with the teachers in English.

(担当者：栄養学科 メリッサ小笠原)

5 国際科委員会 学生ボランティア活動

＜ベレノバ大学国際交流＞

平成 28 年 5 月 8 日～5 月 14 日の日程で、ベレノバ大学から学生 8 名および引率教員 2 名を受け入れることに伴い、学生同士の国際交流の一環として、1 月から学生ボランティアの募集をしている。現在、21 名が参加しており、その内 8 名はベレノバ大学生とのメール交換を通じて交流を深めている。今後、研修のサポートや歓迎会等の企画等、準備を進めていく予定である。

(担当者：看護学科 市川美奈子)

IV 社会福祉研修実績

研修名	時期	日数	受講実績	会場
		日	人	
社会福祉行政新任職員研修	4/17	1	29	青森県立保健大学
老人福祉施設新任職員研修	4/27	1	86	青森県立保健大学
障害児・者福祉施設新任職員研修	5/13	1	152	青森県立保健大学
保育所新任保育士研修	5/14	1	130	青森県立保健大学
高齢者支援セミナー	6/8, 6/22	2	59	青森県立保健大学
社会福祉施設職員経理研修（保育所）	6/23	1	70	青森県立保健大学
社会福祉施設職員経理研修（保育所以外）	6/24	1	125	青森県立保健大学
食の安全セミナー（栄養・食育マネジメントセミナー）	7/14	1	296	青森県立保健大学
社会福祉行政職員セミナー	7/17	1	2	青森県立保健大学
社会福祉施設職場研修担当者研修	7/23～7/24	2	29	青森県立保健大学
社会福祉トップセミナー	8/22	1	131	青森県立保健大学
社会福祉施設中堅・指導的職員研修	8/24、9/7、9/8	3	32	青森県立保健大学
保育所セミナー	9/3	1	64	青森県立保健大学
生活保護従事職員・査察指導員研修	9/10	1	5	青森県立保健大学
社会福祉施設看護職員研修	9/18	1	82	青森県立保健大学
子ども・家庭福祉担当職員セミナー	9/25	1	56	青森県立保健大学
保育所新任保育士フォローアップ研修	10/6	1	74	青森県立保健大学
障害児・者支援セミナー	10/16	1	68	青森県立保健大学
社会福祉援助技術研修	11/13, 11/20	2	55	青森県立保健大学
カウンセリング研修（初級）	11/26	1	58	青森県立保健大学
カウンセリング研修（中級）	11/27	1	30	青森県立保健大学
セーフティネットフォーラム	2/17	1	70	青森県立保健大学
社会福祉主事資格認定講習会	5/25～11/25 (実習期間含む)	54	40	青森県立保健大学
		81	1,743	

V 平成27年度公開講座実績

基本テーマ：生活と健康

年度テーマ：青森県のヘルスリテラシー向上

回	月	日	曜	講 師	職 名	講 演 テ ー マ	参加者/年間					
1	5	23	土	藤田 智香子	理学療法 准教授	転ばぬ先の杖、あなたを支える杖	458	1,295				
				浅田 豊	栄養学科 准教授	ヘルスリテラシーの向上を支援するための教育方法						
2	6 ※	6 安	土 方	古川 照美	看護学科 教 授	親子関係と生活習慣	101		1,295			
				大山 博史	社会福祉 教 授	メンタル・ヘルスリテラシー - うつ・自殺予防に向けて -						
3	6 ※	20 下	土 北	杉山 克己	社会福祉 教 授	健康生成論とヘルスリテラシー - 健康はいかにつくられるか -	81			1,295		
				佐藤 秀一	理学療法 教 授	バイオメカニクスって何？ - 姿勢・動作の仕組みと健康 -						
4	7	4	土	上泉 和子	理事長 学 長	青森県のヘルスリテラシー向上に向けて - 保健・医療・福祉の地域づくり -	437				1,295	
5	7	18	土	小笠原 メリッ サ	健康科学 講 師	乳幼児の健康と安全を守るために - チャイルドシートに関する知識を高めましょう -	218					1,295
				齋藤 良子	看護学科 准教授	周産期における口腔ケアの意義						